

2018年度学校関係者評価報告書

エール学園
学校関係者評価委員会

エール学園学校評価委員会では以下のように、2018年自己点検・自己評価表に基づき学校関係者評価を行いましたので、以下のように報告致します。

1 学校関係者評価実施概要

① 学校関係者委員名簿

氏名	所属	属性
吉水 雄一	株式会社 OS コンサルティング 代表取締役	企業・業界団体関係者
原田 智樹	株式会社アーストレック 代表取締役	卒業生 企業・業界団体関係者
牧 文彦	NPO 法人ディープピープル 理事長	企業・業界団体関係者
中澤 修	株式会社ケイティエス 常務取締役	卒業生保護者
内山 雅文	大阪 YMCA	在校生・卒業生の出身学校
任 滸龍	エール学園	卒業生 同窓会会長(事務局)
長谷川 恵一	エール学園 理事長	法人代表者(事務局)
萩原 大作	エール学園 校長	学校代表者(事務局)
木村 多恵子	エール学園 日本語教育事業本部 本部長	日本語教育学科運営責任者 (事務局)
木田 明美	エール学園 専門教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者 (事務局)
豫城 聖子	エール学園 キャリア教育メンタリング室 室長	就職対象学科教務運営担当者 (事務局)
西村 康司	エール学園 キャリ支援室 室長	就職支援関係担当者(事務局)
崎村 真	エール学園 経営支援本部 本部長	法人本部事務責任者 事務局担当(事務局)

② 学校関係者評価委員会次第

学校関係者評価日程		
日 時：2019年8月22日（木）13時～15時		
場 所：エール学園大会議室		
会議名：エール学園学校関係者評価委員会		
会議次第		
時間	項目	担当者
13時00分	1. 開会挨拶	長谷川理事長
13時10分	2. 委員紹介	事務局
13時20分	3. 2018年度自己評価結果全体について	事務局
13時35分	4. 自己評価結果概要説明 専修学校における学校評価ガイドラインに 基づく評価の大項目別の概要説明	学校側各担当者
14時05分	5. 各学科の活動状況報告及び進路状況について	学校側各担当者
14時15分	6. 質疑応答／意見交換	各委員より発言
14時45分	7. 結果とりまとめと公表計画について	事務局
15時	8. 閉会	長谷川理事長
参考資料		
1 2018年度エール学園自己点検・自己評価結果報告書		
2 学校パンフレット一式		
3 新年度学則（2019年度学則）		
4 学科別在籍状況及び卒業及び進路状況資料		
5 2018年度財務状況資料 決算概要		
6 その他の資料		

2 外部委員よりいただいた意見・評価

評価項目	評価・意見
教育目標と重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい自分」は他にもあるが、「つくす自分」があるから独創的であり良い目標である。 ・学園としての教育目標、重点目標は明確で具体的な内容で掲げられており、それに向けての計画が実施され、着実に達成されています。 ・「なりたい自分、つくす自分」の経営理念を根底に留学生に将来の自分を考えさせ、それを実現するための必須要素である「人間力」を高める教育を一層強化する。このことは企業の人材採用ニーズとも合致し、またビジネスを学ぶために日本に留学した学生の留学ニーズにも合致し、留学生、企業、学校とも ALL-WIN となるための教育を進めている点を高く評価。 ・教育目標と重点目標へ向かった成果がうかがえる。
基準1 教育理念・目的・育成人材等	<ul style="list-style-type: none"> ・第一世代から第四世代と、時代、時代に合わせたの理念があり、カリキュラムも点検されている。 ・教育理念や教育の目的は明確に定められており、長谷川理事長のお話からも伺うことができます。創立 50 周年を迎え、新たな時代においても理念に沿った人材育成がなされていると思われます。 ・人材育成の根底となる「人間力」向上のために定量評価（パフォーマンス）と定性評価（モチベーション）双方から定期的に検証、分析をする「週間テスト」のフィジビリティ導入など、結果のマトリクス分析を通じ「人間力」成長度合いを客観的に計測し、DB 化するなど、教育の検証をするための取り組みは、留学生にとり自身の成長を実感できる要素となり CS の高い施策を実施している。 ・理念表出が常に意識化されている。
基準2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・中期、長期計画、年度事業計画に基づいて精度の高い運営がなされている。 ・運営方針、事業計画が適正に定められており、それに沿って運営を目指して組織運営に取り組まれていると思います。 ・主事業の「教育活動収支」の予算進捗率も 99.3%と高く、今後も規制強化や国際経済情勢により、学生募集は影響を受ける可能性はあるが、2019 年度 5 月入学生は対前年比 109%で安定し、本業の収支は次年度以降も安定すると思われる。特定技能の新設により留学需要への影響は今後留意する必要があるが、特定技能に対しての市況変化も次年度以降検討する方針としている。 ・計画的
基準3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なコースがあり、全てのコースで正しく方向づけられ、時代の変化で点検整備されている。 ・多彩な学科や多様なカリキュラムが設けられており、時代や国際環境、業界のニーズに向けた教育活動が行われていると思います。 ・「人間力」向上に付随する教育としてボランティア活動は、同校は兼ねてより注力しており浪速区以外の自治体からもボランティア相談や要請が増え「エールカフェ」を立ち上げ、学生、学校、自治体と一体になるプロジェクトを通じ講義以外で「人間力」向上の活動を強化している点は他学校にはない教育活動。 ・理念と社会ニーズのマッチングを積極的に実践されている。
基準4 教育成果	<ul style="list-style-type: none"> ・大学への進学率が上がっており、特に国公立大学への進学率が上がっている。また、就職希望の学生にも、就職率 100%で対応しており大いに評価ができる。 ・日本国内の最高ランクの大学・大学院への進学や、日本企業への就職に高い実勢をあげています。ビザなどの問題にも積極的に取り組み、高い就職率に成果が表れていると思われます。 ・卒業後の進路として就職、大学（大学院）への進学を掲げ、就職は就職希望者 154 名中 154 名の就職決定実績、進学も 98 名の大学進学実績など、卒業後の進路を見ても学生に対しての教育成果を体現している。今後就職企業の多様化（上場企業等）を図るべく商工会議所などとも連携を強化していることも学生の就職期待につながっている。 ・アウトプットにとらわれずアウトカム重視がうかがえる。
基準5 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導、生活指導等、学生に対して面倒見の良い指導、支援を行っている。 ・就職指導、進学指導、生活指導のいずれにも専門人材を配置し、サポートが充実

	<p>していると思われます。奨学金制度など経済的な支援体制、健康面の支援体制も整備がなされ、きめ細やかな支援が行われていると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の指導については、メンター制を導入し、学業、生活支援は徹底出来てきている。ただ、母国の保護者への支援も学生支援の延長として今後強化していく。保護者の安心感があってこそ、新規留学にもつながるため、日本を留学先に選んで頂けるためにも、この取り組みの充実を期待したい。 ・最終進路までのケアがしっかりととされている。
基準 6 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽校舎の売却と、新校舎の新築で耐震化を進め、合わせて自転車置場も新設した。将来は学生の集まるキャンパスを作ってほしい。 ・校舎の老朽化、非耐震化を解決するために新校舎が建設され、安心な施設背設備が提供されたと思います。防災に対する体制、学外インターンシップ制度も整備されており、ハード・ソフトの両面で教育環境の充実が伺えます。 ・2018 年度の 5 号館竣工にあわせて、ICT 設備を導入し、講義室ファシリティが向上。また既存 3 号館の大改修等も実施し、空調設備を更新するなど学生が学びやすい環境の提供に対して投資を行っている。 ・ともすれば教育環境としては好ましくないと捉えられがちな繁華街という地域性を、逆に優位性として生かしている。
基準 7 学生募集と受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集は、厳しいコンプライアンスにのっとり行われている。また、学生寮を備えて、入学後の体制も出来ている。 ・留学生向けのホームページやパンフレットに教育成果、実績等を明確に掲載して周知が行われており、海外のエージェント、日本語学校との信頼関係も強化され、質の高い留学生確保のための募集活動がなされています。 ・ベトナム上位大学との連携による留学生募集など海外大学との連携をこれまで強化し、大学卒業後、専門学校に入学する他校には稀有な留学フローを確立。今後はベトナム以外の ASEAN 各国の有力大学と同様の連携を強化することは他校にない取り組みとして評価。 ・堅調である。
基準 8 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の顕著な伸び（現在約 1600 人）で 2018 年度に負債ゼロを達成し年度業績も黒字が続いている。 ・留学生が連続して増加しており、財務状況が大きく改善されているとのこと、また日本人向けの予備校も黒字に転じたとのことで、安定した財務状況であると思われます。 ・特記事項は長期借入金債務の完済。自己資本比率、流動比率も高く、フリーキャッシュフローも潤沢なため、財務基盤は安定化に入っている。 ・堅調である。
基準 9 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法にのっとり学校運営がなされている。 ・留学生に特化した学校として、留学生の在籍管理に力を入れておられ、「在籍管理適性校」の認定を受けられており、高い評価を得られるものと思います。 ・出入国管理庁への適宜学生状況の共有など学校法人として、留学生として社会問題となっている不法滞在につながるような対応を絶対に看過しない対応を全職員徹底している。 ・特になし。
基準 10 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣自治体との提携も含め、地域活動は活発であり、地域住民の皆様の評判も良くなってきた。 ・通訳・翻訳の要請への協力や地域貢献型インターンシップの実施、ボランティア活動、企業や団体との連携・交流など様々な取り組みを行っており、社会貢献、地域貢献のリーダーシップを取られるものと思います。 ・「エールカフェ」などの自治体、企業との連携によるボランティア、社会貢献活動などは同校が最も大切にし、他校と差別化できている点でもあり、高く評価。 ・積極的に外部との繋がり、連携、協働がはかられている。

3 まとめ

エール学園では、自己点検・自己評価とそれに基づく学校関係者評価での意見・評価を今後の学校運営の改善に活かす努力を続けるべくここにこの結果を公開致します。

また継続的に自己点検・自己評価→学校関係者評価の PDCA サイクルで教育の質向上に努力する所存です。

以上